

第3学年 国語科学習指導案

日時 2023年9月20日(水)5校時

子ども 3年2組 21名

授業者 石川祥太郎

授業支援 前多 香織教諭

野村 香菜子教諭

1. 題材名「ポスターを読もう」(言語活動:読書ポスターを作ろう)

2. 題材の目標

ポスターを読んで、必要な情報を整理したり、目的に合ったポスターの工夫に気付いたりして、自分の考えをもつことができる。

【知識・技能】比較や分類のしかたを理解し使うことができる。

【思考・判断・表現】文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。

【主体的に学習に取り組む態度】ポスターを読んで、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする。

3. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
比較や分類の仕方を理解している。((2)イ)	「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)	ポスターを読んで理解したことに基づいて、進んで感想や考えをもとうとし、学習課題に沿って、友達と伝え合おうとしている。

4. 指導する内容について

(1) 題材について

① 題材観

読書週間を話題にして、ポスター例で表現されている情報(テキスト、非連続型テキスト)の読み取り方を学び、読み取った情報に対する自分の考えや感想をもつことができる題材である。知らせたい内容に注目してもらうため、どのようなイラストや写真、キャッチコピーが使われているか、それぞれの組み合わせ方による効果を考えることができる。また、同じテーマのポスターを比較することで、得られる情報や目的、伝える相手の違いについても考えることができる構成になっている。

② 児童観

国語に対する興味関心の高い子どもたちが多く、五七五などの俳句や詩を考えることが好きであり、自主学習での取り組み等で自分で考える学習に取り組む子どもが多い学級である。「読むこと」については、スムーズに文章を読むことや内容をだまかに把握することはできるが、内容を踏まえた上で重要な語句を選んだり、要約したりする力には課題が見られる。それを踏まえ、語彙力を増やすために、気持ちや様子を表す言葉集めや新出漢字の熟語の意味調べなどを行ってきた。語彙力を身につけ、相手の心情や大切な語句を見つけ出すことや自分の考えや感想を伝え合うことを出来るようになってほしい。

③指導観

日常の中にポスターを目にするのは多い。しかし、ポスターを「見る」だけで、しっかりと読むことが出来ない。この単元では「読む」学習経験を通して、情報を届けるために、どのようなことに気をつけたらよいかを自分で考えさせたい。さらに、友達との対話を通して、多様な感じ方や考え方に気づき、相手意識をもって情報を伝えたり、どのような意図で作られたのかを想像したりできる思考力を育てていきたい。本単元では、相手に短い言葉で想いや考えを伝える力を育成したいので、「キャッチコピー」に焦点を置いて学習を進めていく。

また、ポスターが作られた意図を理解したうえで、「自分だったらこんなキャッチコピーを作りたい」「ポスターを作りたい」という意欲が喚起されることが予想される。2月に「これがわたしのお気に入り」(書く)単元が12時間であるうちの1時間を「キャッチコピーを考えて作る」という活動に充てる。この活動を通して、2月に伝えたいことを明確に書くという活動の基礎を育てる側面も「キャッチコピー作り」に期待できると考えている。本単元の学習後は、本校でも、11月に読書週間が予定されていることから、特別活動の学級活動の中で「係や当番の仕事を見直そう」の時間に図書館利用を促したりするなどして、学んだことを活かす学習活動を教科横断的に取り組んでいく。

(2) 研究に関わって

① 放送・ICTの活用の実態

国語科に限らず、算数科のものさしやメジャーの使い方を学ぶ場面や社会科の地図記号を覚える場面などの知識技能を身につけられるように放送番組は活用しており、子どもたちは集中して視聴することが出来ている。特に国語科では、課題設定の動機付けや学習の見通しをもちやすい番組を活用し、子どものやる気や意欲につなげて、学習を進めている。

子どもたちのICT機器の操作については、タイピングなどの技能的な個人差はあるが、基本的なローマ字入力や画像を送るなどの技能は身につけている。

〈個別最適な学びに向けて〉

- ・事前学習として、語彙力を高めるために様子や動き、心情を表す言葉を調べて、言葉図鑑としてコラボノートへとまとめている。今回本時の課題解決の際に見返して、キャッチコピーの要素としての活用が見込める。
- ・本時において、番組(NHK for School「お伝と伝じろう」)を課題解決の場面で言葉を磨く工夫について理解を深める手がかりとする。

〈協働的な学びに向けて〉

- ・様々な教科や活動で、ペア交流や子ども同士で対話をする場面を多く設定し、自分の考えを伝える力や友達の考えを聞く力を高めてきた。声に出して伝えるだけでなく、端末に考えを書き込んで交流しながら、自分の考えとの共通点や違いに気付くように支援してきた。
- ・本単元では、「キャッチコピー作り」を通して、友達と対話したり、考えを端末上で交流したりなど、子ども同士が協働し学び合い、高め合う活動を設定している。言葉による見方・考え方を働かせて「言葉をみがく」ために観点を示して対話を促していく。

②本題材における放送・ICTの活用

ツール	活用場面	良さ
NHK for School 『お伝と伝じろう』 〈言葉が人をひきつける〉	分割視聴 第2時、第3時の授業場面 ① 課題づくり(初め～03:14) ② たくさん書く(03:55～05:15) ③ 相手に伝わる言葉を選ぶ (05:16～06:26) ④ 言葉をみがく(06:27～08:33) ⑤ 完成作品とまとめ(08:35～09:35)	①:動機付けや意欲に繋げることが出来る。 ②③④:活動の見通しを持たせることが出来る。 ②キャッチコピーをたくさん書くための方法 ③伝わる言葉の選び方や文章の添削の仕方 ④言葉を具体的にしたり、さらに伝わる言葉へと変えたりするための方法 ⑤:ポスターの絵に意識を向けることが出来る。
タブレット デジタル教科書 コラボノート	問題提示 子どもが解決するために思考 子どもが考えを友達や全体に共有する 補足説明 言葉図鑑 (コラボノートのマイノートに、読書の良さについての考えや、言葉の言い換えを集めたもの)	教師と子ども、子ども同士で教材提示や考えを共有することによって、思考が広がったり、整理されたり、深まったりする効果がある。 また、学習の見通しをもちやすい。

5. 指導計画(3時間扱い)

	学習過程	学習活動		評価		
		子どもの活動	放送・ICT	知	思	主
1	・学習計画作り ・ポスターの読み方を知る	・単元全体における学習の見通しをもつ。 ・ポスターの大切な要素として、「言葉(キャッチコピー)」、「絵や写真」「知らせたい内容」があることを知る。	・タブレット端末 ・コラボノート	○	○	
2	・目的や対象によって、ポスターやキャッチコピーの書き方が変わることを学ぶ。 ・本を読むことの良さを伝えるキャッチコピーを考える。	・同じ内容の2枚のポスターを比較し、なぜ、表し方が違うのかを考える。 ・本を読むことの良さを考える。 ・本を読むことの良さを伝えるには、どのようなキャッチコピーにするか、読書の良さをたくさん考えて、一つのキャッチコピーを作る。	・タブレット端末 ・NHK for school 『お伝と伝じろう』 〈言葉が人をひきつける〉 部分視聴 ・コラボノート		○	○
3 本時	・学んだことを活用し、キャッチコピーを改善する ・交流・発表する。	・前時に書いた、キャッチコピーを学習したことをもとに改善していく。 ・友達のキャッチコピーを聞いて、良い所を評価し、感想や意見を伝える。	・タブレット端末 ・NHK for School 『お伝と伝じろう』 〈言葉が人をひきつける〉 ・コラボノート		○	○

6. 本時について

(1) 本時の目標 (3/3)

相手を意識して言葉を選び、よりよくするために言葉を考え、キャッチコピーを作ることができる。

(2) 本時の展開 (○子どもの活動 ●教師の動き △留意点 □評価)

	子どもの活動	教師のはたらきかけ	留意点・評価
導入 5分	○前時を振り返る。 ○今日の目標を確認する。	●前時で学んだことを確認する。 ●本時の課題づくりをする。 ・今日の目標をループリックをもとに伝える。	△コラボノート(個別モード)で確認する。 □S:工夫してさらに良いキャッチコピーを作る。また、友だちに感想や意見を伝える。 A:さらに良いキャッチコピーを作る。また、友だちに感想を伝える。
展開 35分	○動画を見る。2分 ④言葉をみがく(06:27~08:33) ○言葉を磨く工夫を確認する。2分 ○自分のキャッチコピーをみがく。(個人思考①) 10分	●補足説明しながら、視聴させる。 ●動画の中に出てきた、方法を板書する。 ・人に例える→親しみが生まれる ・繰り返し、五七五→言葉にリズム ・質問の形、会話の形→読みたくなる ●改善が難しい子には、アドバイスを。どの工夫を使うか考えるのを支援する。	△机間巡視・支援(前多先生と野村先生)
	○グループになり、キャッチコピーを見合って改善し、自分のキャッチコピーを完成させる。10分(深める、個人思考②) ○キャッチコピー交流・発表 10分 ・1人ずつ自身の作品を発表し、心に響いたキャッチコピーは、ノートに発表者名をメモをする。	●考えたキャッチコピーをグループで工夫のもとに改善するように声掛けする。 ●今日の学びを生かして、キャッチコピーを完成させるように指示する。(コラボノート) ●子どもが考えたキャッチコピーを電子黒板に写す。	□目的や相手を意識して言葉を考えたり、集めたりしながらふさわしい言葉を選び、キャッチコピーを作ることができた。 【思・判・表】 □自分からキャッチコピーを考えたり、友達とお互いのキャッチコピーの感想を伝え合ったりすることができた。 【主・学・態】
まとめ 5分	○今日の学びの振り返り 3分 ・自己評価と振り返りをコラボノートに記入する。	●今日の学びの振り返りをコラボノートに記入するように指示する。	△S or Aで自己評価する。

(3) 板書計画

九月二十日(水)
ポスターを読もう

キャッチコピーとは、
「ものの良さを伝える短い言葉」

か 読書がしたくなるような、さら
によりキャッチコピーを考えよう。

○みがく工夫

- ・人のようにたどえる
↓親しみ、わかりやすさ
- ・くり返し、五七五↓リズム感
- ・会話の形、質問の形
↓本が読みたくなる

交流の流れ

- ① アドバイスをする
- ② つくえをもどす
- ③ キャッチコピーを完成する

<引用番組 URL>

○課題作り 番組視聴 3分41秒(初め~03:41)

https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005150173_00000#in=17&out=222

○たくさん書く 視聴時間1分20秒(03:54~05:15)

https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005150173_00000#in=234&out=315

○相手に伝わる言葉を選ぶ 視聴時間1分10秒(05:16~06:26)

https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005150173_00000#in=316&out=386

○言葉のみがく 視聴時間2分06秒(06:27~08:33)

https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005150173_00000#in=387&out=513

○完成作品とまとめ視聴時間1分(08:35~09:35)

https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005150173_00000#in=515&out=575

ルーブリック評価(3/3)

評価基準	S	A	B
知識・理解	よりよいキャッチコピーを作るための方法を3つ以上理解することができた。	よりよいキャッチコピーを作る方法を2つ以上理解することができた。	よりよいキャッチコピーを作る方法を、1つ以上、理解することができた。
思考・判断・表現	目的や相手を意識して言葉を考えたり、集めたりしながら言葉を工夫して、よりよいキャッチコピーを作ることができた。	目的や相手を意識して言葉を考えたり、集めたりしながらふさわしい言葉を選び、キャッチコピーを作ることができた。	キャッチコピーをよりよくするために言葉を考えたり、友達の言葉を参考にしたりしながら作ることができた。
主体的な学習態度	自分からキャッチコピーを考えたり、友達とお互いのキャッチコピーの感想や意見を伝え合ったりすることができた。	自分からキャッチコピーを考えたり、友達とお互いのキャッチコピーの感想を伝え合ったりすることができた。	友達とお互いのキャッチコピーの感想を伝え合ったりすることができた。